IT'S TIME TO END THE DEATH PENALTY

和歌山カレー事件の林眞須美さんは本当に犯人？

死刑について考えてみませんか

東京拘置所のそばで死刑について考える会「そばの会」
東京都荒川区南千住1-59-6-302
http://sobanokai.my.coocan.jp/

マスコミに毒婦と騒がれた林さん、自宅にあったヒ素が重要証拠とされ、死刑が確定しました。しかし後に犯行に使われたヒ素とは違うという鑑定意見書が出ました。林さんは最初から無実を訴えていますが、今も再審は開かれていません。

袴田巌さん、世界で最も長く拘置された死刑囚（一九六六年の逮捕から二〇一四年の釈放まで四八年間）と紹介されました。今回、検察側が特別抗告を断念したことで、やっと再審開始が確定しましたが、逮捕から五七年たった今も、まだ「晴れて無罪」を勝ち取れていません。

ここまで長引いたのは検察が全証拠を開示しなかったこと、そして抗告を繰り返したことと袴田さんの弁護団は批判し、再審制度を変えなければ今後も第二、第三の袴田さんが出ると言っています。

冤罪はなぜ、なくならないのでしょうか？

袴田さんの死刑判決で一人の裁判官は無実を主張しましたが、マスコミの犯人視報道も大きく影響し、死刑確定囚となりました。

免田栄さん、アリバイがありながら死刑判決を受けましたが「一番憎いのはマスコミ」と言っていました。無罪になっても嫌がらせは続きました。マスコミで犯人とされてしまうと死ぬまで「殺人犯」が付きまといます。

林さんの自宅も落書きだらけとなり、ついに放火されてしまいました。和歌山カレー事件の過熱報道はマスコミからも行き過ぎと一部反省もありましたが、犯人を仕立て上げる罪は重いものがあります。私たちもテレビなどで見て、つい悪い人と判断しがちです。安易な一件落着で人生を狂わされた人がいることを考えなければなりません。

ある法相は「死刑の執行は慎重な上にも慎重を重ねて」と言いました。それならば、まず警察での取り調べの全可視化が必要です（現在はまだ可視化が3％にすぎません）。

そして死刑判決は裁判官の多数決ではなく、全員一致に。さらに再審制度を変革し、検察が全ての証拠を開示し、抗告の繰り返しをやめること。

最後に再審請求中の死刑囚の処刑をやめることが、本当の意味で「慎重」ではないでしょうか？

冤罪で処刑された西武雄さんの句です。

叫びたし　寒満月の　割れるほど

これほどの無念さがあるでしょうか？

（S）